

クメ)

三三港設電第三七號(十月十二日球參電第一。五號返)

當部隊舟艇全部破壊セラレ救助困難ニ付貴方ニ救助方取計ハ度 尚當部隊ヨリ軍ニ出張中、西村大尉ニ其旨下命セラレ度

四球設電第三三號(十月十九日三三五八受)

沖繩本島各病院並ニ患者療養所ニ收容シマラス

(本電ハ那霸出張中、西村大尉軍醫部、調査ヲ依頼セリ返電)

五搜索ニ関スル命令

ハ十月十四日 日々命令第四項拔萃

陸軍主計中尉 楠原利家

陸軍一等兵 栗山克己

往路神山島近邊ニ周廻シ長井軍曹以下五名ノ行方ヲ搜索ス

細部ハ別ニ指示ス

乙、十月十九日 日々命令第一項

本陸軍准尉 三石節二

陸軍上等兵 山下廣見

十月十日遭難セル漁船「交關丸」搜索ヲ命ズ

依而三石准尉、渡嘉敷村兵事主任及潜水ニ経験アル者

三名ヲ以テ十月二十日神山島附近ニ至、搜索ヲ實施スベシ

細部ニ関シテ別ニ指示ス

寫

神山島附近搜索報告書

昭和十九年十月十九日

於那霸市部隊連絡所

陸軍主計中尉楠原利家印

第三港灣設定隊長鈴木常良殿

十月十九日小官以下七名漁船成田丸及天馬舟一ヨ以テ交関丸遭難地点ニ至リ搜索ヲ實施セリ其狀況尤ハ通報告ス

記

一 搜索狀況

十時神山島ニ到着ス偶々同島西北部淺瀬中央部ニ坐礁セル小漁船ヲ發見先ツ之ニ至リ搜索スルニ彈痕血痕其他軍人着装ヲ思ハス何物モナク船名ハ「昭榮丸」ト記シアリタリ次ニ神山島ヲ各々區署ニ海岸ヨリ陸地一帯ニ亘リ相互連絡シツツ隅々ク搜索セルモ何等發見セズ次デ神山島西南ヲエテ島ニ移ル東南部ニ小立アリ之ニ漁

夫、物置兼休憩所、如キ小穴アリテ中ニ網若干アルヲ見タ
リ、古キ鉄板ヲ以テ屋根トナシ偽装ヲ施シアリタルモ遭難
者ノ立入りタル形跡察知シ得ズ、此邊ニテ敵機銃、藥莢
DM43ヲ發見セリ、附近一帶雜草類、燃燒シタル形跡アリ
依而綿密ニ搜索セリ、此小穴ニ至ル小徑ニ於テ小キ御
守入レテ一個(中ハ空ニシテ新シキモ小破アリ)捨得セルモ所持者判
定シ得ズ

次ニ神山島西方「ナカニ」島ニ至リ同様丹念ニ搜索ニ
努メタルモ之亦何等發見スルニ至ラズ依而歸途ニ著ク
那霸港着十五時三十分頃ナリ

二 判決

前記、如ク搜索セルモ何等、手掛リナク長井軍曹以下五名
、遭難者、神山島及其附近島嶼ニ上陸セル模様ナク
山下上等兵、當連絡所中迫軍曹ニ爲シタル報告ヲ綜合

スルニ右五名、者ハ敵、反復攻撃、シテ受傷シ沈船諸共
或ハ入水、儘潮流ニ掠レテ遂ニ死亡セシモノト推定ス

寫

長井軍曹以下五名ニ對スル遭難現場搜索

狀況報告

昭和十九年十月二十日

陸軍准尉 三石節二 (印)

第三港灣設定隊長鈴木常良殿

十月二十日神山島ニ到リ過般遭難セル交関丸遭難現場附近ヲ實地檢證搜索、結果長井軍曹以下五名、戦死セルヲ確認シ得ベキ事由左記、如シ

一長井軍曹及河野衛生上等兵、敵機來襲ニ際シ數回ニ亘リ猛烈ナル銃撃ヲ受ケタルヲ別紙遭難者狀況報告書、如ク空箱ヲ利用シ遭難セシトシタルモ當時海上ニ別紙要圖、如ク潮流ハ北方ヨリ東南ニ向ケテ進ミ、山島及附近諸島ニ遊難スルニシテ開係上友関丸遭難現場ヨリ神山島附近諸島ニ遊難スルニ、何レモ百五十米乃至二百米、距離ヲ有シ相當、水泳能力ヲ有セザシバ遊難スルコトヲ得ル狀況ニシテ案スルニ長井軍曹及河野衛生上等兵

平素水泳、自信ナク、爲ニ空箱ヲ利用シ避難セント企テタルモ、之、間敵、銃撃ニ依リ、受傷、結果身体、自由ヲ失ヒ其目的ヲ達セズ、遂ニ海中ニ没シ戦死シタルモ、ト推定セラル

二 別紙遭難者状況報告書ヨリ遭難當時ニ於ケル状況ヲ推定スルニ患者三名、敵機來襲ニ際シ受傷、結果身体、自由ヲ失ヒ同船ヲ長室ニ立籠リタルモ、同船、漂流ト共ニ沈没シ船長室ニ於テ海中ニ没シ戦死セルモノト推定セラル

三 交関丸遭難現場ヲ搜索セル結果同船錨一個私製夏袴一着、下着船員夏半袴一着海中ニ没シタルヲ発見引揚ゲタル外一物ヲモ見當ラズ、尚神山島及其附近、全島ニ對スル搜索ヲ行ヒタルモ死体又ハ其、他死没者ニ對スル遺留品等、物件ヲ發見セズ

沖

繩

島：日十

郡

桑和嶺

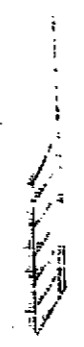
神山島

水深約五米

大原丸遺跡至瑞

高田山於一環流古

ノ人



島

島

島

島

島

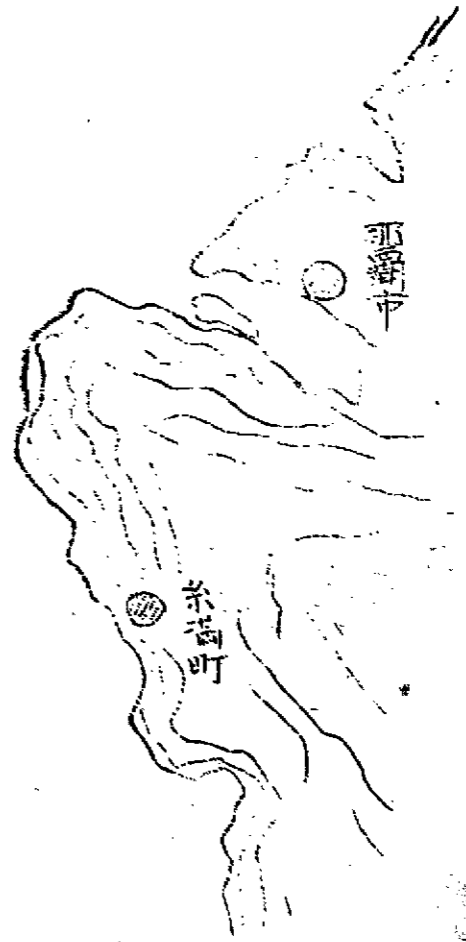
島

島

島

島

島



寫(別冊)

漁船「交關丸」遭難三關丸狀況報告書

一出港田時場所及船名

昭和十九年十月十日八時二十分渡嘉敷港發 交關丸

二遭難時刻

昭和十九年十月十日十一時三十分頃
那霸市西方約十料 神山島附近

三場所

四遭難者

豫備役 陸軍軍曹

長井 治

同

陸軍上等兵

山下 廣

同

同 衛生上等兵

河野 堯 衛

第二補充兵役

陸軍二等兵

山田 胤 也

同

同

遠藤 正 元

第二國民兵役

同

宮川 次 光

渡嘉敷村兵事主任

新城 真 順

交關丸船長

交関丸機関長
同 船員 四名

五 遭難状況
計 一三名

人 袖山島附近ニ至ル迄ノ状況(別紙要圖)

十月十日八時三十分渡嘉敷港ニ出発シ前島南西附近ニ出ルト那覇市ガ空襲ガサレテ居ル状況ガ見ラレ一應前島南端附近ニ約十五分間停船シテ様子ヲ宥視ヒマシタガ此ノ方面ニ対シテハ危険ガナイモノト思ハシタノデ長井軍曹ガ出發ヲ促シ前島南端ヲ東ニ向ヒミシタスト那覇市空襲ノ様相一層激甚ノ様ニ見エタノデ同島東方ヲ迂回シテ同島北端ニ在ル沖島ニ約四十分間投錨シミシタ然レ敵機ハ飛來ノ徵候ナク又同島ヲ出發シテ那覇ニ向ヒマシタ神山島附近迄來ルト那覇市上空ニ高射砲彈ノ炸裂スルガ見受ラレ危険ヲ感ジタノデ神山島ニ避難スル陸地ヨリ約三百米沖合ニ投錨シタ

此ノ頃ガ二時三十分頃ト思ヒマス
之空襲状況及行動概要
山上下等兵

偶々飛行機二機ガ頭上ニ旋回シテマシタガ彼我判明セズニ一回目ノ旋回トキ其標識ヲ見テ敵機ト知リ「敵機々々」ト連呼シマシタ此ノ時又那覇市方向ヨリ三機以上ノ敵機ハ低空ヲ銃撃シ始メタノデ全員海ニ飛込ニ銃撃ヲ都度水中ニ沈メテ難ヲ避ケマシタ約七八回銃撃後一時敵機ハ去リタノデ自分等ハ船ニ近寄り長平軍曹ト河野上等兵ハ船ニ上リ木製空箱ニ海投シマシタ此ノ時長井軍曹ハ一等兵三名ガ船長室ガ即死シマシト言ハレマシタ

(第一回銃撃時船ハ二等兵五名及船員三名並船長等殘リタル模様ナレモ船長不明)此ノ頃又敵機ガ來リテ長井軍曹等三名ハ海ニ逃込ニ空箱ノ類ノ岸ニ向ヒ泳ガマシタ船員等ハ其時六十米程前ノ島ニ向ッテ泳イタマシタ船員等五十米程泳イタ頃タニ銃撃ヲ受ケ水中ニ落テ陸

シテ難ヲ避ケル、島ニ向ヒシタガ此、間ニ右ニ左ニ流レテ入、間ニ次第ニ
開ケ然モ自今ハ海水ヲ多量ニ飲ミ泳グコトガ精一杯デシタガ他ヨ見ル
邊モナク遂ニ長井軍曹ヤ河野上等兵ヲ見火ビヨリ自今ハ其ノウチガ島
ニ着キ海面ヨ見マシタガ右ニ名ノ邊ハ見ヘズ海面ニ空箱モ見當ラズ、
テ先ニ上陸シタカ又ハ戦死シテモト相像シヨリ敵ヲ那覇市空襲ノ後
河度トナリ來ル船員ニミシタガ林、申ニ避難シキ居リキ無事デシタガ自今ハ先
ニ上陸シタ船員三名ト一緒ニキリ其ノ一名ノ負傷者ニ自今ハ腹巻ヨ脱シテ
手當ヨシ共ニ附近ノ草ノ申ニ遠敵シキ時ヲ通シヨシタ
ナニ時頃至ル金ノ止シタガ狀況ヨ見ヨト思ヒテ海岸ニ出ヨシタ此、時
更ニ二名ノ船員ニ會ヒ体具合ガ悪イ様子ナキ自今ハ左足ニ傷ミキリ
巻脚絆ヨ以テ腹ヲ巻イキリシタガ他ノ三名モ濱ニ出キ五人ヲ連絡寺談
ヨ希議シキ居ル内ニ暗クナリシタガ下度司島ニ避難シキ居リシタガ漁夫
六名モ會ヒ那覇市ニ連絡ヲ交シシタガ要領ヨ得キ其ノ申渡等ハ
刻舟ニ依リ那覇市ニ歸リマシタ

此、島ニ自今等ヨリ先ニ海軍ノ遭難者ガ六名(二名ハ軍人ニシテ其ノ内一名ハ即
死他ノ重傷同夜死亡ス外ニ軍属ト認メラル、四名)居リ自今等ト共ニ細小屋
ニ入り寝マシタ之ヨリ前夕方同島(神山島)ハ二個ノ島ヨリ成リ東西ニ分レ
アリ山下上等兵ハ西側ノ島ニ上陸スヨリ廻リ長井軍曹及河野上等兵ヲ探
シマシタガ見當ラマセンデシタ尚船員ノ負傷者ハ兵事主任等ト共ニ那覇市
ニ向ヒ出登シタコトヲ聞キマシタ 細小屋ニ一夜ヨ明シキ十時ハ救助來ルノ
ヲ待ツテ居タ所十七時頃一船員(避難中ノ者)父ガ十四、五才ノ男子ヲ
連レ刻舟ニ來マシタノデ之ニ自今ト船員四名ガ乘リ那覇市南方ノ某國
民學校下ニ着キ自今ハ部隊連絡所ニ行クタメ船員等ト別ニシタ
連絡所ハ焼失シテ牧志町方面ニ移轉シタコトヲ知り同町附近ヲ探シマシタガ判ラズ
ノテ附近ニ居ク憲兵隊ニ行キ其ノ指示ヲ受ケ其ノ夜ハ其處ニ寝マシタ
十二日朝牧志町ニ内會長ノ家ニ行キ連絡所ヲ聞キマシタガ主人ガ不在タメ
判リマセンデシタ其時家人ガ裸体ヲ居ル自今ニ縋絆ヲ呉レマシタ
連絡所不明ノタメ舊連絡所附近ヲ確メヤウト思ヒ歸ルカケテ時一名兵

會ヒ夫レガ連絡所、兵ダツタ、デ一緒ニ部隊連絡所ニ行キ中迫軍曹以上
ノ状況ヲ報告シマシタ、當日ハ同所デ休養シ翌一三日十時那霸出發大發
船デ歸隊シマシタ

口新城兵事主任

神山島沖合ニ投錨後間モナク敵機ノ銃撃ヲ始マツテ「海ニ飛込」ト叫
ビナガラ自分モ海ニ入りマシタ銃撃ガ一時止シタトキ船側ニ歸リ見ルト兵三名
ガ船長室デ血ニ染マリ動カズニ居タ、テ即死ト思ヒマシタ此ノ時長井軍曹
ハ船カラ空箱ヲ海中ニ投ゲテ居リマシタガ言葉ヲ交ス違モナク更ニ銃撃
ヲ始メタ、テ兵隊ノ中ニハ水泳不能ノ者モアルコト、思ヒ濱近クニアル舟ヲ見
付ケ之ニ向ツテ泳ギマシタガ其ノ舟ニ海軍ノ遭難者ガ數名居テ内一名
ハ即死他一名ハ重傷シテ居マシタ、テ其ノ儘陸ニ向ヒマシタ此ノ間振返リ
ツ、船ヲ見マシタガ最初ノ銃撃ヲ受ケ錨綱ヲ切ニシテ沈ミナガラ南方ニ約
三百米程漂流シテ遂ニ沈没シ僅ニ船長室ノ上部が見エテマシタ
初メノ敵機ハ約三十分間反復銃撃ヲ加ヘテ何處カへ去リマシタガ其ノ後那

覇(空襲)都渡線返ニ攻撃ヲシテ來マシタ、テ島ノ林中ニ避難シテ
居マシタ日没後偶々同島ニ避難シテ居タ漁夫ニ會ヒ之ニ交渉シテ刻
舟ヲ那覇ニ連絡ニ行コトニシマシタ、當時此ノ島ニ上陸シタモノハ自分
ノ他ニ機關長ト船長、弟、三人ト思ツテ居マシタガ他ノ船員ニ會ヒ
上陸シテ居ル者ハ上等兵一(山下)上等兵一(船員四(前記)負傷者ヲ
含ム)テアルコトヲ知リマシタ

軍曹ト衛生上等兵ト船長ノ消息ハ不明デニ等兵三名ハ即死シ
タコト、思ヒマシタ日没後刻舟ニ五名(自分ト機關長及負傷セル
船員並ニ漁夫)同乗機、者ニ救助ノ來リヲ待ツレテ那覇
市ニ連絡ニ向ヒマシタ那覇市垣、地國民學校下ニ到着シ負傷者
ハ丁度來合セタ海軍士官ノ厚意ニ依リ「トラック」ニ乗セ小繰ノ農
事試驗場ニ在リ海軍根據地病院ニ入院サセマシタ

其ノ夜負傷者ノ家族ニ此ノ事ヲ傳ハコウトシマシタガ駄目デシタ
機關長、那覇市到着後家族ノ安否ヲ氣遣ヒテ自宅ニ飯ヘッ

テ行キマシタ自分ハ神山島ニ避難セル者、救助方ヲ頼ムタメ各所ニ問
合タ後海軍根據地司令部ニ行キ之ヲ頼ミマシタ此、時土時頃(十月
十一日)ダツタト思ヒマス夫ヨリ西原ニ住ム叔父ノ家ニ行ク途中球部隊
本部ニ寄リ村ノ船ノ状況等ノ電報ヲ依頼シマシタ
其ノ日夕方高地ニ登リ神山島ヲ見ルト刻舟一隻及漁舟一隻が其ノ
島ニ見エタテ救助ノ舟ダト思ヒ安心シマシタ其ノ後用事モ終リマシ
タノテ球第一六七九ノ部隊ノ連絡所ヲ探シ十六日晝頃連絡所ニ行キ其ノ
給養ヲ受ケナガラ業務ヲ援助シ十七日朝那霸發漁船光勇丸ヲ販
村シマシタ

六、結局本遭難ニ依ル状況ハ前記ノ通りテ自分等ノ目撃者ニシテ範圍
デハ尤記ノ者ハ銃撃ヲ依リ即死或ハ負傷シ力盡キテ海中ニ沈ニダモ
ト思ヒマス

豫備役 陸軍軍曹 長井 治

豫備役	陸軍衛生上等兵	河野 堯 衛
第二補充兵役	陸軍二等兵	山田 胤 也
同	同	遠藤 正 元
第二國民兵役	同	宮川 次 光
	交關丸船長	

計六名

右ノ通り状況ヲ報告致シマス

昭和十九年十月十七日

右

山下 廣 夏 (印)
新城 真 順 (印)

①



1.
307

廣
東
海
峽



廣
東
海
峽



那

廣



島

島

廣
東
海
峽

廣

東
海
峽

廣
東
海
峽

沖



那

那

廣
東
海
峽

軍事機密

死亡確認書

海上後送基地第三大隊

陸軍中隊 曹長 井 治

陸軍中隊 曹長 河野 堯衛

陸軍中隊 曹長 山田 胤也

陸軍中隊 曹長 遠藤 正元

陸軍中隊 曹長 宮川 次光

四行削除
名字抹消
凡字挿入



一 生死不明トナリ夕九日時場所

昭和十九年十月十日 十一時三十分頃

沖繩縣那覇市西方約八里神山島附近

二 生死不明トナリ夕九日前後ノ状況

昭和十九年十月十日部隊ハ平常ノ通漁船交開丸(曉

第六一六八部隊微用船ニシテ部隊配屬中ノモノヲ當日

連絡船(那覇)渡嘉敷島間トシテ連絡長山下上等



兵ヲ乗込マシノ八時二十分渡嘉敷港ヲ出帆セシム
 同港前面ノ城島ヲ南ニ廻リ前島西南ニ至リ那覇市ニ
 異状アル情況ヲ眺望シ一時前島南端附近ニ停船セル
 モ該方面ニ危険ナシト判断シ出發同島南端ヲ東ニ向ヒ
 航行中此ノ頃ヨリ空襲ナラント知り一應待避スベク前
 島東方ヲ北ニ向ヒ同島北端ニ近キ沖島ニ投錨約四十
 間微候ヲ窺ハリ然ルニ敵機來襲ノ微候ナク且任務
 基キ長井軍曹ヲ出發督勵ニ依リ出港セリ
 神山島附近ニ至ルヤ那覇市ノ狀況愈々明瞭トナリ
 之ニ進接ノ危険ヲ察シ同島近ク投錨ス時三十一時
 三十分頃ナリ
 此ノ頃ヨリ同船ハ敵機ノ攻撃ヲ受テ治敵ハ十六時頃
 ナリ神山島及附近ニ反復鏡撃ヲ行實施セリ幸ワシク
 同島ニ避難セル渡嘉敷村主任新城真順ハ同夜

漁舟ニ便乗シ那覇ニ至リ海軍根據地司令部及陸軍
 二軍司令部ニ此ノ狀況ヲ報告救助ヲ依頼ス
 山下上等兵ハ神山島ニ一夜ヲ明シ十七時頃救助ヲ
 レ那覇ニ至リ十三日歸隊シ兵曹主任ハ同月十七日歸村
 シ別冊ノ如ク報告セリ
 尚當日ノ乗船者及任務左ノ如シ

業務連絡(入院患者被服取扱) 陸軍軍曹 長井 治

連絡長 陸軍上等兵 山下 廣見

入院患者護送 陸軍衛生專兵 河野 堯衛

患者 陸軍二等兵 山田 胤也

同 同 遠藤 正元

同 同 宮川 次光

渡嘉敷村兵事主任 新城 真順

外ニ船長一機関長一船員四 計十三名

因ニ當日十時十分頃ヨリ渡嘉敷島ニモ三機襲下リ數機ノ編隊ヲ以テ反復銃爆撃ヲ加ヘ十六時頃迄繼續セリ此ノ爲本島及附近ニ在リシ船艇ハ悉ク攻撃ヲ受ケ渡嘉敷港ニ入港中ノ漁船三隻炎上沈没シ船員中即死一重傷一(同日死亡)輕傷一ヲ出シタリ

三採リタル搜索手段

十月十日三港設電第三四號ヲ以テ那霸出張中ノ西村尉ニ交開丸ノ安否ヲ照會セリ之ニ對シ第三十二軍司令部ヨリ球醫電第二二三號ヲ以テ沖繩本島各病院並ニ患者療養所ニ收容シアラザル旨返電アリタリ
十月十一日軍司令部ヨリ球參電第一〇五號ヲ以テ交開丸神山島附近ニテ遭難ヲ傳ヘ救助方告知アリタルニ當部隊ニ於テハ船艇全部ヲ失ヒ救助不能ニ付軍ニ於テ救助方依頼スルト共ニ其ノ旨那霸ニ出張中ノ西村大尉ニ命令

依頼セリ(三港設電第三七號)

十月十三日山下上等兵歸隊同十七日當村兵事主任歸村其ノ報告ニ基キ十月十九日楠原主計中尉以下七名及十月二十日三石准尉以下六名ヲ現地ニ向ハシメ之ガ搜索ヲ實施セリ
尚十月二十日渡嘉敷島ニ壹體、十月二十三日前島ニ貳體ノ死体漂着シ檢視シタルモ何レモ當隊ノモノニ非ズ

四死亡確認ノ理由

神山島附近ニ投錨後忽チ敵機ノ攻撃ヲ受ク即チ各自海ニ投ジタルモ既ニ船ハ錨網ヲ断タレ漂流シアリ七八回銃撃ノ後敵機一時去リタル間長井軍曹、河野上等兵船ニ上リ偶々積載中ノ木箱ヲ海ニ投ゼリト(岸上等兵船側海中ニテ目撃ス)游泳ニ當リ浮力ヲ得ントセルモノノ如シ此ノ時船長室ニ休養セシメアリシ入院途中ノ患者三名前

記二等兵三名)横臥ノ儘全身血ニ染ミ在ルヲ見タリト謂フ
即チ疾病ニ衰弱セル肉體ニハ氣力亦伴ハズ遂ニ待避ノ
機ヲ失シ銃彈ヲ蒙リシナラン 敵機再ビ迫リ長井軍曹
等海ニ投ジ木箱ニ頼リ岸ニ向ヒタリト
當時附近ノ潮流ハ東北流ナルモノノ如ク遭難現場ヨリ島
ニ向フハ之ニ逆行ヲ免カレズ剩ヘ浮カヲ得ントセシ木箱ハ
潮流ヘノ逆行ヲ益々阻害シ爲ニ漂流ノ状態ニ在リシモ
察セラル共ニ游泳中ノ山下上等兵ハ徒手ナリシタメ此ノ
縛ヲ免カレタルモノノ如ク難スルヲ得タリ而シテ潮流ノ
儘ニ浮游シアリシ長井軍曹河野上等兵ハ爾後數次ニ
巨砲銃撃ヲ受ケ遂ニ創痕ノタメ力盡キ海没セシモノナ
ラン尚船上ニ在リシ二等兵三名ハ第一面ノ攻撃ヲ受ケシ
際受傷身體ノ自由ヲ失ヒ漂流下共ニ刻々沈没スル船
運命ヲ共ニシタルモノト推定ス

右ノ事實ハ生還セル山下上等兵及渡嘉敷村兵事主任
新城真順ノ報告並ニ搜索ニ當リタル楠原主計中尉
及三石准尉ノ報告書ニ徴シ明カナリ即チ前記五名ノ
死體ハ發見セザルモ死亡セルニ相違ナキモノト認ム

右確認ス

昭和十九年十月二十六日

海上機進基地第三大隊長 鈴木 常 良

參考

搜索ノタメ採リタル措置

一、三港設電第三四號(十月十一日一七一〇發)
 十日八時渡嘉敷發連絡船交開丸ニ依リ入院患者及護送者等長井軍曹以下六名貴地ニ向ハシメタリ到着セリヤ返
 (西村大尉死ニ球第一六七九〇部隊連絡所氣付)

二、球參電第一〇五號(十月十二日一〇三二發)

昨十日十時三十分頃第三港灣設定隊所屬漁船交開丸ハ神山島附近ニ於テ敵ノ爆撃ヲ受ケ沈没シ第三大隊入院患者三名衛生兵三名村役場兵事主任及船員七名計十四名内六名神山島ニ上陸シ残り八名ハ沈没船ニスカリタルマ、南方ニ漂流中ナル由村役場兵事主任神山島ヨリ丸木船ニテ那西朝ニ上陸報告セリ至急貴隊ヨリ救助船ヲ派遣サレ度(那西朝ニハ

健在ナル舟艇ナキヤス

三三港設西電第三七號(十月十二日球參電第一〇五號返)
當部隊舟艇全部破壊セラレ救助困難ニ付貴方ニテ救助方
取計ハレ度 尚當部隊ヨリ軍ニ出張中、西村大尉ニ共ノ旨下
命セラレ度

四球醫西電第二一三號(十月十九日二三五八受)

沖繩本島各病院並ニ患者療養所ニハ收容シアラズ
(本電ハ那霸出張中、西村大尉軍醫部へ調査ヲ依頼セル返電)

五. 搜索ニ関ル命令

ハ十月十四日 日々命令第四項抜萃

四 陸軍主計中尉 楠原 和家
陸軍一等兵 栗山 克巳
往路神山島近邊ヲ周回シ長井軍曹以下五名ノ行方ヲ搜
索スベシ

細部ハ別ニ指示ス

2. 十月十九日 日々命令第一項

本 陸軍准尉

三石 竹節 二

陸軍上等兵

山下 廣見

十月十日遭難セシ漁船「交野丸」ヲ搜索ヲ命ジ
依而三石准尉ハ渡喜敷村兵事主任及潜水ニ経験アル者三名
ヲ以テ十月二十日神山島附近ニ至リ搜索ヲ實施スベシ
細部ニ関シハ別ニ指示ニ

寫

神山島附近搜索報告書

昭和十九年十月十九日

於那西爾市部隊連絡所

陸軍主計中尉 楠原利家

陸軍海濱隊隊長 鈴木常良殿

十月十九日小宮以下七名漁船成田丸及天馬舟一ヲ以テ交野
丸遭難地点ニ至リ搜索ヲ實施セリ其ノ狀況左ノ通報
告ス

訖

一 搜索狀況

十時神山島ニ到着ス偶々同島西北部淺瀬中央部ニ
坐礁セシ小漁船ヲ發見先ヅ之ニ至リ搜索スルニ彈痕
血痕其ノ他軍人着裝ヲ思ハス何物モナク船名ハ昭然
丸下記シアリ
次ニ神山島ヲ各々區署シ海岸ヨリ陸地一帯ニ亘リ

相互連絡シツツ隅ナク捜査セルモ何等發見セズ
次デ神山島西南「アエ」島ニ移ル東南部ニ小丘アリ
之ニ漁夫ノ物置兼林惣所、如キ小穴アリテ中ニ
網若干アルヲ見タリ 古キ鉄板ヲ以テ屋根トナシ
爲裝ヲ施シアリタルモ遭難者ノ立入りタル形跡察知シ
得ズ 此、近ニテ敵機銃ノ藥莢 DM43ヲ發見セリ
附近一帶雜草類ノ燃燒シタル形跡アリ依而綿密ニ
捜索セリ 此ノ小穴ニ至ル小徑ニ於テ小サキ御宇入
一個(中ハ空ニシテ新シキ破リ)拾得セルモ所持者判別
シ得ズ
次ニ神山島西方「カカン」島ニ至リ同様丹念ニ捜索
ニ努メタルモ之亦何等發見スルニ至ラズ 依而歸途ニ
ツク 那霸港着十五時三十分頃ナリ

二判決

前記ノ如ク捜索セルモ何等ノ手掛リナク長井軍曹以
下五名ノ遭難者ノ神山島及其ノ附近島嶼ニ上陸セ
ル模様ナク山下上等兵ノ當連絡所中迫軍曹ニ爲
シタル報告ヲ綜合スルニ右五名ノ者ハ敵ノ反復攻
撃ノタメ受傷シ沈船諸共或ハ入水ノ儘潮流ニ掠
レ遂ニ死セシモノト推定ス

以上

寫

長井軍曹以下五名ニ對スル遭難現場捜索

狀況報告

昭和十九年十月二十日

陸軍准尉

三石節二

第三零四設定隊長鈴木常良殿

十月二十日神山島ニ到リ、過般遭難セル交開丸遭難現場附近ヲ實地檢
 證捜索ノ結果長井軍曹以下五名ノ戦死セルヲ確認シ得ベキ事由左記也
 一長井軍曹及河野衛生上等六八敵機來襲ニ際シ數回ニ互リ猛烈ナル銃撃
 ヲ受ケタルヲ別紙遭難者狀況報告書、如ク空箱ヲ利用シ避難セントシタル
 三當時海上ハ別紙要圖、如ク潮流ハ北方ヨリ東南ニ向テ進ミテリシ關係上
 交開丸遭難現場ヨリ神山島及附近諸島ニ避難スルコトヲ得ズ
 尚交開丸遭難現場ニ於ケル水深ハ約五米ニシテ神山島附近諸島ニ避難スル
 三何レモ百五〇米乃至二百米ノ距離ヲ有シ相當ノ水泳能力ヲ有セザレバ避難
 スルコトヲ得ザル狀況ニシテ空箱ニ長井軍曹及河野衛生上等六八素水泳
 ノ自信ナク爲ニ空箱ヲ利用シ避難セントシタルモ之ノ間敵ノ銃撃ニ依リ受

傷ノ結果身体ノ自由ヲ失ヒ其ノ目的ヲ達セズ遂ニ海中ニ没リ戦死シタルモノ
ト推定セラル

ニ別紙遭難者状況報告書ヨリ遭難當時ニ於ケル状況ヲ推定スルニ患者三名ハ
敵機來襲ニ際シ受傷ノ結果身体ノ自由ヲ失ヒ同船々長室ニ立能クシ
ルマ同船ノ漂流ト共ニ沈没シ船長室ニ於テ海中ニ没リ戦死セルモノト推定セラル

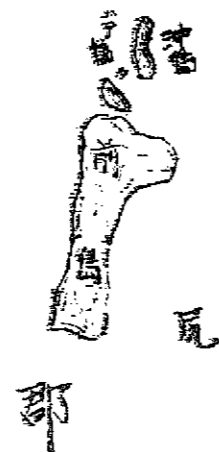
ニ交關九遭難現場ヲ搜索セル結果同船錨一個私製衣夏袴一着船員夏半
袴一着海中ニ没シタルヲ発見ヲ得ケル外一物ヲモ見當ラズ

尚神山島及其附近ノ全島ニ對スル搜索ヲ行ヒタルモ死体又ハ其ノ他死没者ニ
對スル遺留品等ノ物件ヲ発見セズ



儀容

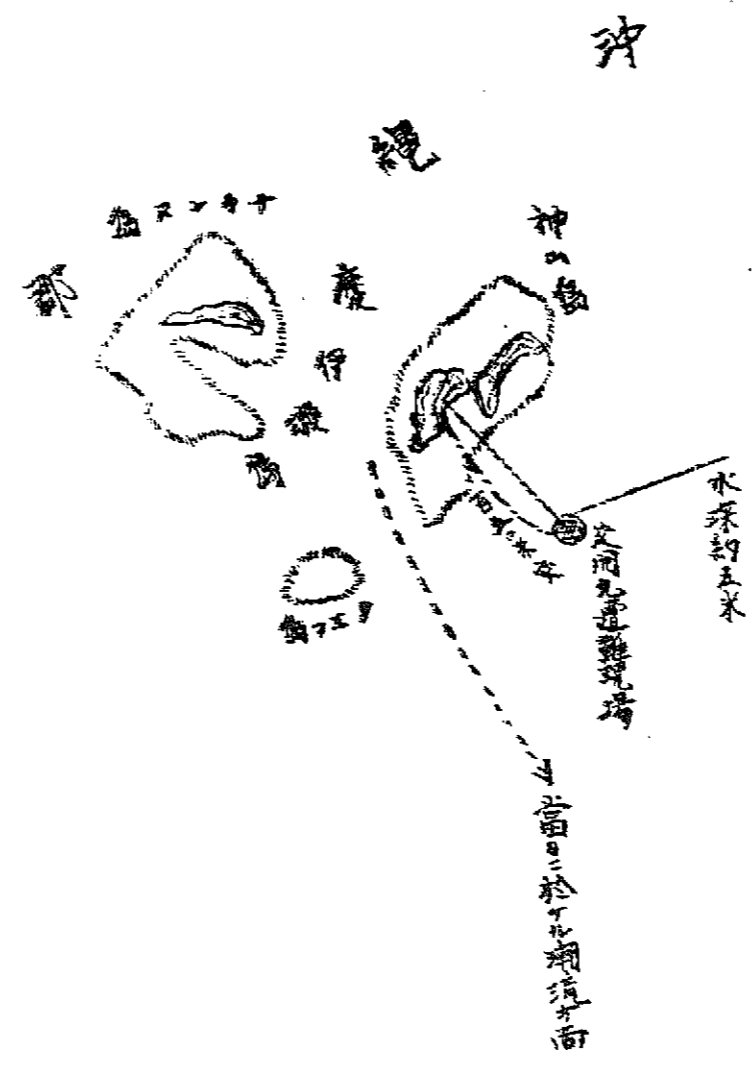
...



那

瓦

島



神

神

都

...

...

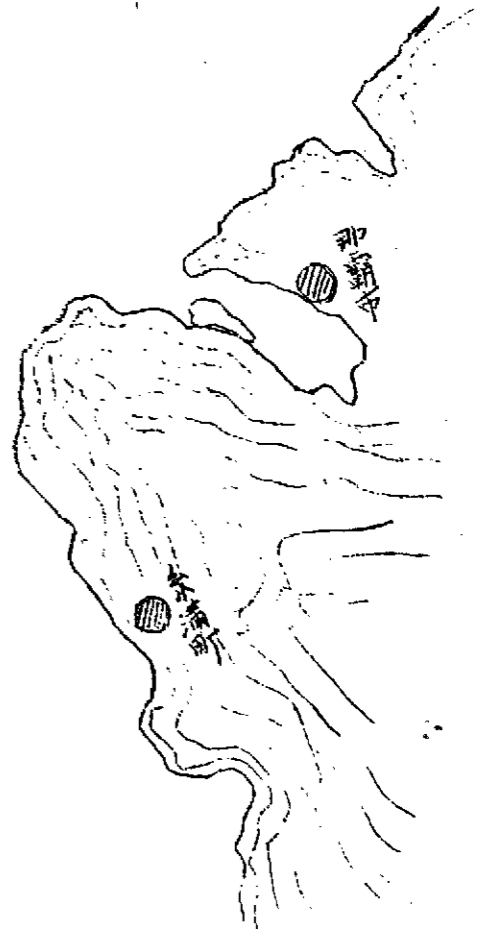
...

島

水深約五米

...

當口於...海面向



那

...

馬(別冊)

渡船「交爾丸」遭難之関之状況報告書

一出港日時場所及船名

昭和十九年十月十日八時二十分 渡嘉敷港発 交爾丸

二遭難時刻

昭和十九年十月十日十一時三十分頃

三場所

那霸市西方約十料 神山島附近

四遭難者

豫備役	陸軍軍曹	長井 治
同	陸軍上等兵	山下 廣見
同	同衛生上等兵	河野 堯衛
第二補充兵役	陸軍二等兵	山田 胤也
同	同	遠藤 正元
第二國民兵役	同	宮川 次光

渡嘉敷村兵事主任

新城真順

交開九船長

同 機関長

同 船員 四名

計一三名

五 遭難ノ状況

ノ神山島附近ニ至ル迄ノ状況(別紙参照)

十月十日八時三十分渡嘉敷港ヲ出発シ前島南西附近ニ出ルト那覇市ガ空襲サレテ居ル状況が見ラレ一應前島南端附近ニ約十五分間停船シテ様子ヲ窺ヒマシタガ此ノ方面ニ對シテハ危険ガナイモト思ヒタテ長井軍曹ガ出発ヲ促シ前島南端ヲ東ニ向ヒマシタ。スルト那覇市空襲ノ様相ハ一層激甚ノ様ニ見エタノデ同島東方ヲ迂回シテ同島北端ニ在ル沖島ニ約四十分間投錨シマシタ。然シ敵機ハ飛來ノ徵候ナク又同島ヲ出発シテ那覇市ニ向ヒマシタ。神山島附近迄來ルト那覇市上空ニ高射砲彈ノ炸裂マルノガ見

受ラレ危険ヲ感シタノデ神山島ニ避難スヘク陸地ヨリ約三百米沖合ニ投錨シマシタ。此ノ頃十一時三十分頃ト思ヒマス。

2. 空襲ノ状況及行動ノ概要

い山下上軍六

偶々飛行機二機ヲ頭上ヲ旋回シテキマシタガ彼我判明セズニ回目ヲ旋回ノトキ其ノ標識ヲ見テ敵機ト知リ「敵機トシテ連呼シマシタ。此ノ時又那覇市方面カラ三機以上ノ敵機ガ低空ヲ経テ飛來シテ始メテ全員海ニ飛込シ銃撃ヲ都度水中ニ沈ニテ難ヲ避ケマシタ。約七、八回銃撃ノ後一時敵機ハ去ツタノデ自分等ハ船ニ避難シ長井軍曹ト河野上等兵ハ船ニ入り木製ノ空箱ヲ海ニ投テキマシタ。此ノ時長井軍曹ハ二等兵三名ガ船長室ヲ即死シテキルト言ハレマシタ。(第一回銃撃ノ時船ハ二等兵三名及船員二名並ニ船長等残りタル様相ナルモ船長ハ不明)此ノ時又敵機ガ來タノデ長井軍曹等三名ハ海上飛込シ空箱ニ積リテ海ニ泳ギマシタ。船員等共、時未キ米程前ヲ島ニ向テ泳イテキマシタ。船ヲ離テ米程泳イテ岸カラ銃撃ヲ受テ水中ニ没シテ難ヲ避ケマシタ。

島に向ヒマシタカ此、間ニ右ニ左ニ流サレテ、間ハ次第ニ開ケ然モ自分ハ海水ヲ多
量ニ飲ミ泳ケテトカ積一杯デシテ、他ヲ見ル處モナク遂ニ長井軍曹マ河野
上等兵ヲ見失ヒマシタ。自分ハ幸ウジテ島ニ着キ海面ヲ見マシタカ右ニ名、姿ハ
見ヘズ海面ハ空箱モ見當ラヌデ先ニ上陸シタカ又ハ戦死シタモト想像シマシタ。
敵ハ那覇市空襲、後何度トナク來襲シマシタカ林、中ニ避難シテ居タテ赤
軍デシタ。自分ハ先ニ上陸シタ船員三名ト一儲ニナリ、其一名ノ負傷者ニ自分腹
巻ヲ脱シテ手當ラシ共ニ附近ノ草、中ニ遮蔽シテ時ヲ過シマシタ。

十七時頃空襲ハ会テ止シタテ状況ヲ見ヨウト思ツテ海岸ニ出マシタ。此、時更
ニ一名ノ船員ニ會ヒ体具合カ悪イ様子ナシテ自分ノ左足ニ残ツテイタ巻脚絆
ヲ以ツテ腹ヲ巻イテヤリマシタ。他、三名モ濱ニ出テ五人テ連絡ヲ取リ協議シテ
ソル中ニ暗カキリマシタ。丁度同島ニ避難シテ居マシタ漁夫六、七名ニ會ヒ那
覇ヘ連絡ヲ交渉シマシタカ要領ヲ得テ共ニ彼等ハ、ワクリ舟ニ依リ那覇
方面ニ歸リマシタ。

此ノ島ニ自分等ヨリ先ニ海軍ノ遭難者ガ六名(三名ハ軍人ニシテ其内一名ハ即死他ハ

重傷同夜死セズ外ニ軍醫ト被シテ四名)居リ自分等ト共ニ網小屋ニ入り寝マシタ
之ヨリ前ク方同島(神山島ハ二個ノ島ヨリ成、東西ニ分レテ山下上等兵ハ西側ノ
島ニ上陸ス)ヲ過シ、長井軍曹及河野上等兵ヲ探シマシタカ見當リマシテ
尚船員ノ負傷者ハ兵事主任等ト共ニ那覇ニ向ヒ出立シタコトヲ聞キマシタ。
網小屋ニ一夜ヲ明シテ十一日ハ救助ノ來ルヲ待ツテ居タ所十七時頃一船員(避
難中ノ者)ノ父カ十四、五才ノカチヲ連レケリ舟ヲ來シマシタ。之ニ自分ト船員四
名カ乘リ、那覇市南方ノ某国民學校下ニ着キ自分ハ部隊連絡所ニ行クタメ
船員等ト別レマシタ。

連絡所ハ焼失シテ牧志町方面ニ移轉シタコトヲ知リ同町附近ヲ探シマシタカ判ラヌ
ノテ附近ニ居リ憲兵隊ニ行キ、其ノ指示ヲ受ケ共ニ夜ハ其處ニ寝マシタ。
十二日朝牧志町々内會長ノ家ニ行キ連絡所ヲ聞キマシタカ主人不在タノ判リマ
シマシタ。其ノ時家ノ人裸体テ居ル自分ニ纏絆ヲ呉レマシタ。
連絡所不明タメ舊連絡所附近テ確ノヤウト思ヒ歸リカケタ時一名ノ兵ニ會ヒ
夫レハ連絡所ノ兵ヲツクテ一儲ニ部隊連絡所ニ行キ、中道軍曹ニ以上ノ状況

報告シマシタ。當日ハ同所ニ休養ニ翌十三日^時那覇朝出発ノ大釜船ヲ歸港ニシテ
口新城兵事主任

神山島沖合ニ夜錨後間モナク敵機ノ銃撃ガ始マツタデ「海ニ飛込」ト叫ビナガラ
自分モ海ニ入りマシタ。銃撃キカ一時止シテトキ船側ニ歸シテ見ルト兵三名ガ船長室
ヲ血ニ染下動カズニ居タデ即死ト思ヒマシタ。此ノ時長井軍書ハ船カラ空箱
ヲ海中ニ投ゲテ居リマシタガ言葉ヲ交ス。遂モナク更ニ銃撃ヲ始メタデ兵隊
ノ中ニ水泳不能ノ者モアルト。思ヒ決断クニアル舟ヲ見付ケ之ニ向ツテ泳ギ
マシタ。其ノ舟ハ海軍ノ遭難者ガ数名居テ内一名ハ即死他一名ハ重傷シ
テ居マシタ。其ノ儘陸ニ向ヒマシタ。此ノ間振り返リツ、船ヲ見マシタガ最初ノ
銃撃ヲ受ケ鉤細ヲ切ラレ沈ミナガラ南方ニ約三百米程漂流シテ遂ニ沈没
シ僅ニ船長室ノ上部カ見エテキマシタ。
初ノ敵機ハ約三十分間反復銃撃ヲ加ヘテ何處カヘ去リマシタ。其ノ後
那覇ヘ空襲、那覇線返シ攻撃ニテ來マシタ。テ島ノ林ノ中ニ避難シテ居マシ
タ。以後同島ニ避難シテ居タ。漢夫ニ會ヒ之ニ交渉シテ、カク舟ヲ那覇朝

ニ連絡ニ行カエトニシマシタ。當時此ノ島ニ上陸シテモハ自分、他ニ機関長ト
船長ノ弟、三ト思ツテ居マシタ。他ノ船員ニ會ヒ上陸シテ居ル者ハ上等兵ニ出
下上等兵ノ船員也(前記負傷者ヲ含シテアルコトヲ知リマシタ)

軍書ト衛生上等兵ト船長ノ消息ハ不明デニ等兵三名ハ即死シタコト。
思ヒマシタ。日没後、カク舟ニ五名(自分ト機関長及負傷セル船員並ニ
漁夫ニ同乗残リノ者ハ救助ヲ來ルヲ待タレテ那覇朝市ニ連絡ニ向ヒマシタ。
那覇朝市垣ノ花屋民學校下ニ到着シ負傷者ハ十度來合セテ海軍士官
ノ厚意ニ依リ「トランク」ニ乗セ小緑ノ農事試験場ニ在ル海軍根據地病
院ニ入院サセマシタ。

其ノ夜負傷者ノ家族ニ此ノ事ヲ傳ヘヨウトシマシタガ駄目デシタ。機関長
ハ那覇朝市到着後家族ノ安否ヲ氣遣ツテ自宅ニ歸ヘツテ行キマシタ。
自分ハ神山島ニ避難セル者ノ救助方ヲ頼ムタノ各所ニ問合タ後海軍
根據地司令部ニ行キ之ヲ頼ミマシタ。此ノ時十一時頃(十月十一日)グント思
ヒマス。夫ヨリ西原ニ住ム叔父ノ家ニ行ク途中球部隊本部ニ寄リ村ハ

船ノ状況等ノ電報ヲ依頼シマシタ
 其ノ日夕方高地ニ登リ神山島ヲ見ルトクワリ舟一隻及浮舟一隻カ其
 島ニ見エタリテ救助ノ弁アリト思ヒ兵心シマシタ其後用事モ終リマシタ
 球六七九〇部隊ノ連絡所ヲ探シ十六日晝頃連絡所ニ行キ其給養
 ヲ受ケテガラ業務ヲ援助シ十七日朝那覇発光(勇)凡テ歸村シマシタ

六、結局本遭難ニ依ル狀況ハ前記ノ通りテ自分等ノ日撃キシタ
 範圍デハ左記ノ者ハ銃撃ニ依リ即死或ハ負傷シ力盡キテ海中
 ニ沈ンダモノト思ヒマス

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 豫備役 | 陸軍軍書 | 長井 治 |
| 同 | 同衛生上等兵 | 河野 堯衛 |
| 第二補充兵役 | 陸軍二等兵 | 山田 胤也 |
| 同 | 同 | 遠藤 正元 |
| 第三國民兵役 | 同 | 宮川 次光 |

交関丸船長

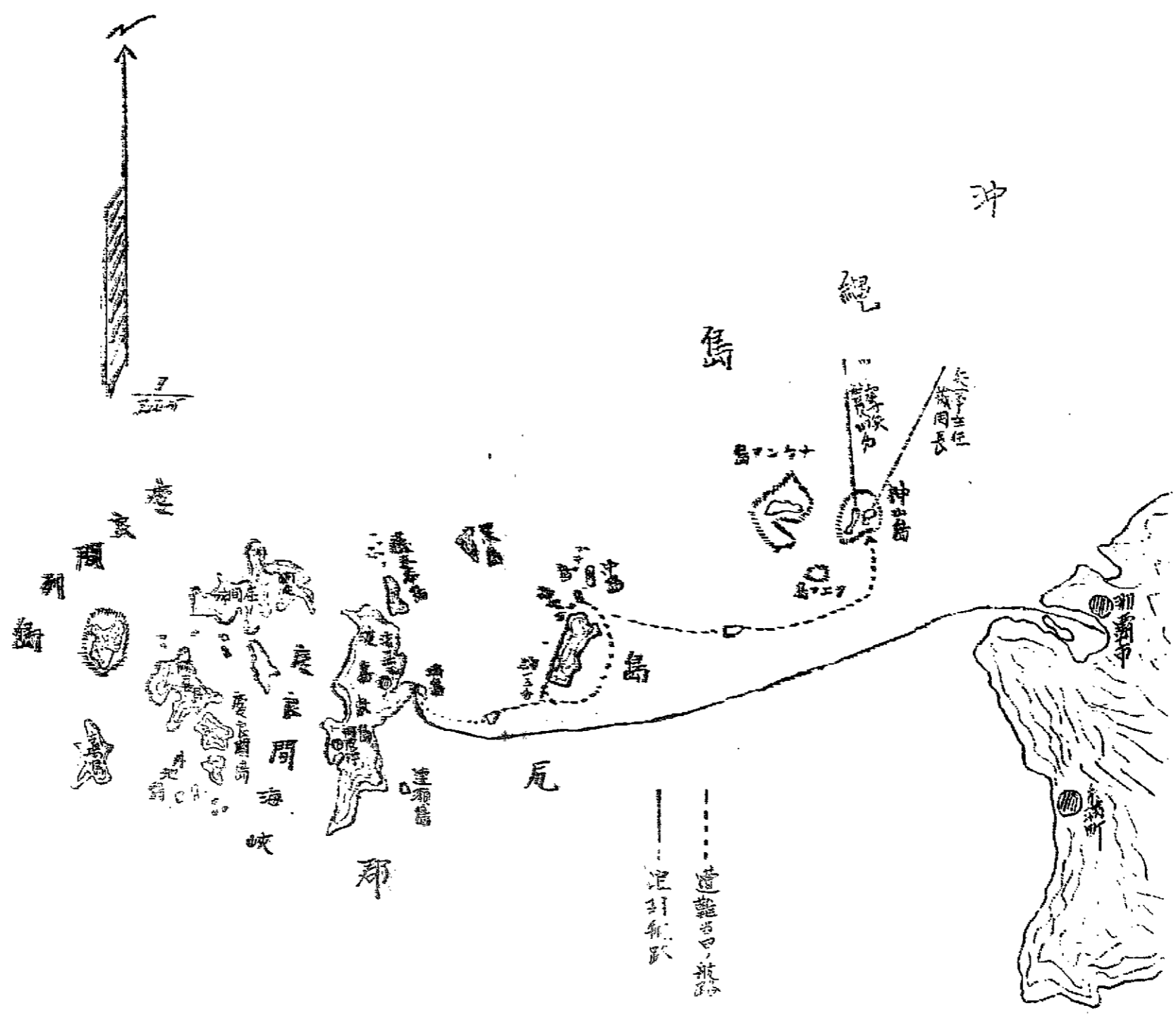
計六名

右ノ通り状況ヲ報告致シマス

昭和十九年十月十七日

右

山下 廣見 (印)
 新城 眞順 (印)



死之證書

海上陸進基地第三大隊第一中隊

陸軍一等兵 遠藤正元

昭和十九年十月十日沖繩陸軍病院入院、島神繩敷島尻郡渡嘉敷港、連絡船交開、丸三那霸、向了際神山島附近、於敵機銃擊、依、受傷、遂、十月十日十一時三十分死亡之(推定)

昭和十九年十月二十六日

海上陸進基地第三大隊附

陸軍軍醫中尉 上原政治

昭和十九年十月十日

死亡證書

海上挺進基地第三大隊第一中隊

陸軍一等兵 遠藤正元

右昭和十九年十月十日沖繩陸軍病院入院、為沖繩縣島尻郡渡嘉敷港ヨリ連絡船交開九三那覇ニ向テ際神山島附近ニ於テ敵機ノ銃撃ニ依リ受傷茲ニ十月十日十一時三十分死之ヌ(推定)

昭和十九年十月十六日

海上挺進基地第三大隊附

陸軍軍醫中尉 上原政弘

陸軍

死亡證書

海上挺進基地第三大隊第一中隊

陸軍一等兵 遠藤正元

昭和十九年十月十日沖繩陸軍病院へ入院、為沖繩島
尻郡渡嘉敷港ヨリ連絡船交開丸ニテ那覇ニ向テ際神
山島附近ニ於テ敵機ノ銃撃ニ依リ受傷遂ニ十月十日
十一時三十分死ス(推定)

昭和十九年十月二十六日

海上挺進基地第三大隊附

陸軍軍醫中尉

上原政之

死之證書

海上棲進基地第貳隊第一中隊

陸軍一等兵 袁正

右昭和十九年十月十日沖繩陸軍醫院入院、為神樂歌

島尻郡渡嘉敷港、結核交臂、三、那、三、四、

神山島附近、於敵機銃擊、依、受傷、遂、十月、

十一時三十分死亡、(推定)

昭和十九年十月二十日

海上棲進基地第三大隊附

陸軍軍醫中尉 上原政次